

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム せせらぎ	評価実施年月日	平成21年7月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年7月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>住み慣れた地域で、“きまま・わがまま・いい加減”の普通の生活を送ることの素晴らしさを支援していく理念。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>覚えやすい理念なので、日常生活の中で意識しながら取り組む努力をしている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ホームの理念は見やすい位置に掲示し、パンフレットにも説明し、家族様や見学の方にも説明をしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩や買い物に出かけた時など近隣の人と顔を合わせたときは、挨拶をし、気軽に声をかけている。 買い物は馴染みの店もできている。</p>	○	<p>7月1日にホームの引っ越しがあり、今後は新地での近所付き合いや他の事業所が側にあるため気軽に立ち寄ったりできるようにしていく。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入し、少しでも行事には参加できるよう努めている。</p>	○	<p>他の2つの事業所と共に協力し合い、地域活動に参加し、当事業所の様子を知ってもらうようにする。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>実習生、ボランティアの受け入れをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価は見える場所に掲示して、自己評価には参加してもらい、外部評価は目を通しておく様に申し送っているが、全員で自己評価や外部評価を話し合う機会は少ない。	○	評価の意味や活用の仕方について、もっと全員で話し合い取組む様に工夫していきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度を目標に会議を開き、少しでも地域と関わりを持ち、交流に取り組んでいきたい。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村と行き来する機会の取り組みはできていない。	○	要請などあれば取り組んでいきたい。 他の二つの事業所と協力し合い、少しでもサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修などで学ぶ機会はあるが、実際に利用している方が少ない為、カンファレンスや勉強会などの機会でも、議題になることは少ない。入社してまもない社員などは、あまり理解していない。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修や勉強会などで学ぶ機会を作っています。 行動障害による攻撃的な態度を取る方もいるため注意をしている。	○	これからも間違った態度や行動を取らないようにカンファレンスや勉強会で学ぶ機会を増やしていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居希望時は代表、ホーム長などが面会に行き、利用料金や重要事項について口頭やパンフレットなどで明示しています。入居前には、できるだけ本人様に見学してもらっています。退去が必要な場合は本人・家族に説明して贈り先との調整をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常生活の中や、ケアプランの書き換えの時など本人様の意見や不満などを聞いています。その中で他の利用者様とのバランスや家族様の要望なども考慮したうえで、本人様と相談し、出来ることを少しずつ実施できるようにしている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>来所時に近況、健康状態などのことをお伝えしています。</p> <p>月に一度担当スタッフによるお手紙で現在の状況を報告したり、個別に電話で様子を知らせています。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一度はカンファレンスを行っている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。</p> <p>不満はすべて把握できていない可能性はある。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>病院の受診や買い物などの相談があれば、それに応じて職員を確保するように調整している。</p> <p>日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>家族や利用者との信頼関係を築くためにも職員の固定化は基本だが、異動や退職がやむ負えない場合は、新しい職員の確保、引き継ぎの面で努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務時や申し送りの中で、管理者が日誌や資料の提供をしている。 定期的な勉強会、カンファレンスで職員間の仕事のやり方や意見交換をしている。 研修等は計画を立て、参加できる機会を作っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	講師として勉強会に招いている。 連絡会に参加。 スタッフの研修を受けるようにしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	月に1度のカンファレンスや個人面談し、個人的に話を聞いたりしている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	月に1度の勉強会を設け、意見を出し合ったり、課題発表・研修発表などを行い、向上心を持って働けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前に面接をし、家族の方からも状況を聴いている。 目線を合わせ、本人様の困っている事、やってほしい事、やりたい事など話を聞きながら対応し、職員で話をしながら、一つ一つ方法を確認し、希望を持ち少しずつ馴染んでいただき、不安のない支援に努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族様からの相談や苦情などはその都度話を聞き、管理者や職員で話し合い、解答・改善をするように努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時は利用者やご家族の思い、状況などを確認しながら支援の提案やサービスにつなげ信頼関係を築き上げていくようにしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に利用者や家族にホームをの見学をしてもらったり、自宅や病院に面会に行き安心感を得られるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者と一緒にの時を過ごすことで、利用者の様子を理解しながら、家族のようなつもりで穏やかな生活ができるよう努力し共に支えあえる関係づくりにしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子や、職員の考えなどを伝えることで、本人を支えていくための協力が築ける。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日頃の生活の様子をこまめに報告しているが、家族の来所が少ない方は関係作りに難しい部分はあるが、少しでも途切れないように連絡をしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人を支えてきた馴染みの場所や、人達との関係が途切れないように外出など一人一人の生活習慣の継続に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	重度化により利用者同市のかかわりが難しくなっている人やケンカ等のトラブルがないようスタッフが間に入りコミュニケーションをとりながら、食卓の位置関係の工夫や孤立化をしないよう声かけなどを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された方との特別な関係は取っていないが、家族の方に様子を尋ねたり、退去後も『いつでもご連絡下さい』等のお話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	長期利用者が多いので、今までの生活習慣を大事にし、日々の生活の中で、利用者や家族と話し合いながら、把握しようと努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	できるだけ本人らしさを継続しながら、安心して生活ができるよう経験や暮らし方の中から確認し共に関わっていくようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の健康チェックや生活の様子を記録し、個別ファイルを作成している。 一人一人のペースに合わせた過ごし方に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者や家族に話を聞き、作成している。 変化のある時、希望がある時は期間に関係なく取り入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1度の計画見直しをしているが、状況の変化に応じて、本人や家族と話し合いをし、計画の立て直しをしている。  介護計画は、家族に送付し、署名していただき確認を取っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のファイルを用意している。  日々の生活の様子や気づいたこと、本人の言葉などを細かな記録が残るようにし、申し送りには細かな情報報告をし、ケアプランに沿った記録をするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	訪問看護、訪問診療が定期的であり、重度化していく中で、医療連携体制を生かして、利用者の状況に合わせた生活の継続、ホームでの看取りなど要望による支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方と一緒に近場の散歩は行けたが、ほかの機関等との協力はできていない。	○	7月に関連事業所の側に越してきたため、協力を持ちながら地域での生活に取り組み連携がとれればと思う。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の希望に合わせて、訪問美容・マッサージ・歯科等を取り入れている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの職員の方には運営推進委員会に参加して頂き、関わりを持つきっかけとなっている。	○	7月中に関連事業所との運営推進会議に参加するため、今まで以上に周辺の情報支援が築けられるよう積極的に協力していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月に2回の訪問診療、週に2回の看護師の健康チェックの他に、希望で訪問歯科による診察や利用者や家族が希望する受診の対応をしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>掛り付け医師に相談し、意見を聞きながら必要であれば専門に受診をしている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>週2回看護師の健康管理を受け、記録を基に連携を取り、必要な時は連絡をし合う、相談をする。</p> <p>状態変化時は病院へ報告をし、支持をもらっている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院に関しては、混乱が少なくて済むように、普段の状況を正確に伝え、家族の方とも情報交換しながら回復状況に合わせ速やかな退院の支援をする。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合、終末期についてホームの方針を伝え、家族の同意を得ている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者や家族、医師、職員との連携を取りながら、事業所で「できること・できないこと」を見極め安心して終末期を過していただけるように取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他へ移られる時は、利用者の生活の様子を伝え、利用者が出来ていることの維持、出来なくなってきていることの援助を継続してもらえよう情報交換をしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者一人ひとりを尊重し、言葉遣いや声かけには、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。</p> <p>記録など個人情報は、見られないよう(読まれないよう)に取り扱いには注意している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の思いや希望に合わせて生活ができるように努めている。</p> <p>少しでも、自分で決める場面作りをしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の生活の流れに合わせた対応をしている。</p> <p>その日の体調もあるため、状況に合わせている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自分で服を選ぶ方もいるが、難しい方には声かけをしながら一緒に選んだり、買い物に行き服を選んで購入している。</p> <p>希望に応じて訪問美容を依頼している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>下膳や食器拭きの出来る方には、手伝ってもらっている。</p> <p>何が食べたいかをたずねてメニューに取り入れたり、状況に応じ、とろみ食、刻み食を取り入れている。職員も一緒に食べている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒は状況に合わせて支援しているが、現在飲む方はいない。 おやつは一緒に買いに行き、好きなものを選んでもらっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	チェック表を作り、排泄パターンを把握し、時間で誘導をして、トイレで排泄を促している。 布パンツ、紙パンツを日中、夜間で利用者と相談しながら使い分けをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を拒む方には無理せず、時間をずらしたり、曜日をずらしている。 毎日入浴をしているので、タイミングに合わせて行っている。 足浴や清拭を取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調に合わせて日中でも休息を取り、一人ひとりの生活リズムを大事にしている。 希望により湯たんぽや、アイスノンを使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりと話し合いをし、外出の計画を立てたり、お掃除などできることは、毎日の習慣にしてもらえるよう役割の支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理の難しい人は、事務所で管理している。 希望により少額を自分で管理し、自由に使えるよう支援をしている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日に、利用者の体調に合わせてながら、ホームの近所の散歩を心がけている。		引っ越しをしてきたばかりなので地域のことはまだ分からないことがあるが、少しずつ一人ひとりの希望にそった外出ができるよう工夫していきたい。  近くに関連事業所があるので、交流を持っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望があれば、予定を立てて外出はするが、現在6人から9人のユニットになり、実現できないことが多い。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話をかけて、家族や知人と話をしてもらっているが、本人自ら電話をかけることは難しい。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は決めていないので、家族の方の都合に合わせて来て頂くようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束はせず、見守りをし、危険がある場合は声かけをしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関の鍵はかけていない。  ドアに鈴をつけている。  夜間は、利用者の希望で居室の鍵をかけることがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフ間の連携を取りながら、見守りをし、ときには利用者が、望んでいる行動を共にしている。 夜間時は、物音や声出しに、すぐ対応できる場所にいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自己管理のできる利用者の方もいるので、すべてを危険だから取り除くというのではなく、状況の変化により注意している。 洗剤などは戸棚にひとまとめに片づけ、スタッフが見える場所にある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐよう、カンファレンスや、マニュアル等を利用し対応に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事業所内で看護師による急変時の対応等の勉強会を設けたり、日常生活の中で、その時々で指導したり、異変時にはすぐに報告をする。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	7月に事業所の移転があったため、これから利用者が回避できる方法を考えていく。	○	今後、避難できる方法、場所の確認、関連事業所や地域の人々に協力を得る方法を身につける。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々の身体的変化や、日常生活の状況などを毎月通信としてご家族様に送付している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>バイタルチェックを毎日行い、申し送りをきちんとしている。</p> <p>その結果を記録することで、情報を共有している。</p> <p>急を要する時は主治医の指示を仰ぐ、家族にも連絡をする。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>月2回の訪問診療時、職員が立ち会い、医師の診断内容を把握し、処方に基づき服薬の支援をしている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>朝食、昼食時、ヨーグルトをつけたり、牛乳や、食事の調整や、希望により乳酸菌を飲用している。</p> <p>下剤の調整もしている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアをし、入れ歯のチェック、洗浄や消毒をしている。</p> <p>口の中、舌のチェックをしている。</p> <p>定期的な訪問歯科による口腔ケアを取り入れている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一意日の水分量は、利用者の体重、体調により水分補給をしている。</p> <p>利用者の食事に合わせ、お粥、トロミ、刻み等の食べやすい工夫をしている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>手洗いやうがい等、清潔に務め、トイレ居間等の共用空間や個々の居室等の消毒清掃をしている。</p> <p>手拭きのタオルはこまめに交換し、紙タオルの使用も用意している。</p> <p>予防接種を定期的に行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗いをしてから食材を使用。 布巾やまな板は漂泊して清潔にし、台所や調理器具は消毒したり清掃している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関はバリアフリーにしている。 生活廃棄物の整理と清潔の保持に努め、周囲の清掃に努めている。 日中は玄関に鍵をかけず自由に出入りができる。	○	季節に合った花を飾り、もう少し明るい雰囲気になりたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間や洗面所などに花を飾っている。 トイレに暖簾を付け、プライバシーの確保に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にソファを置いたり、少し離れた場所に椅子を置いたりし、自分の好きな時間をそこで過ごしていただき一息つける空間を作っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していたタンス、ベットや等利用者と家族と相談しながら、快適に生活できるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計を設置し、その日の天気の変化により温度調整や換気を行っている。 エアコンを設置しているが、普段は窓を開け、利用者の身体状況に合わせている。 ゴミ、汚物やトイレ等には消臭剤を使用し、こまめに後片付けをし、悪臭の出ない工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ、廊下、階段や浴室などに手すりをつけ自立を支援。</p> <p>車イスやシルバーカーの自操が通りやすいように工夫。</p> <p>各居室の表札を見やすい所につけている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>失敗しても責めず、出来ることは介助しながら行っている。</p> <p>日常的に使用する場所には表示をし、自分で仕事をしていると思っている方もいるので見守りをし、行っている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の周りには木や花があり、近くに公園があるので、散歩を楽しんでいる。</p>	<p>○</p> <p>ホームの周りにプランターなどを置き、花を植えたり、小さな畑もあるので野菜を作ったりしていきたい。</p>



V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>○ ①ほぼ全ての職員 ②職員の2/3くらい ③職員の1/3くらい ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

理念を意識しながら、利用者の方々が穏やかに安心した生活を送って頂くように努力している。

日中は、家族の方々がいつでも来所しやすいよう、玄関には鍵をかけていない。